

## STUCK<sup>3</sup> — 泥濘のキュビズム

菊池和晃

KUCHI Kazuaki

2026年3月18日(水) - 3月28日(土)

pm 12 - 7 休廊：日・月・火 曜

菊池和晃による「STUCK<sup>3</sup> — 泥濘のキュビズム」を開催します。

菊池は、過大な労力にまったく見合わない仕事を行うマシンを制作し、それを自ら稼働させることで、美術史上に残る作品イメージを生産する行為そのものを作品化してきました。

鉄やステンレスで作られたマシンは、大人一人では持ち上げることが難しいほど重く堅牢で、工場の工作機械のような外観をしています。実際には、驚くほど非効率で、過酷な労働を強い装置ばかりです。結果や効率が重視される現代社会において、菊池はこうしたナンセンスとも言える行為を、あえて作品として提示しています。

本展では、15世紀の北方ルネサンス、17世紀のバロックへと時代を遡り、3点の絵画をモチーフとした新作を発表します。

今夏、フェルメールの《真珠の耳飾りの少女》が来日し、大阪中之島美術館で展示されることが話題となっていますが、周知の通り、この作品は数奇な運命をたどってきました。フェルメールの死(1675)後に競売にかけられ、約200年にわたり所有者を転々としたのち、1881年の競売で当時わずか1万円で落札され、落札者の死後、本作はマウリッツハイス美術館に寄贈されました。

本展ではこの作品をはじめ、ベラスケス《ラス・メニーナス》、ヤン・ファン・エイク《アルノルフィーニ夫妻の肖像》を題材に、鑑賞者が画面に目線の高さで極端に接近したときに見える(であろう)イメージを描いた《超近景シリーズ》、鉄板に「アイアンブラシホルダー」を用いて描かれた《脱重力の為のプラクティス》など、7点ほどを展示します。

3月21日(土)には、自作のマシンを稼働させるパフォーマンスを予定しています。

+1art



《脱重力の為のプラクティス #1 - アイアンブラシホルダー》鉄、筆 H140(H90)x75x75mm 2026

| 会期中催し |

自作マシンによるパフォーマンス

《芋の皮を剥くことでさえ》を稼働させます。

パフォーマー：菊池和晃

日 時：3/21 (土) pm 12 ~ 7

会 場：+1art

参加費 無料・予約不要

| 展示作品 |

平面 (キャンバスにアクリル絵具、真鍮板にアクリル絵具)

立体 (鉄、ステンレス、アルミ、ジャガイモ、他)

映像 (モニター、他)

計 6 ~ 7 点

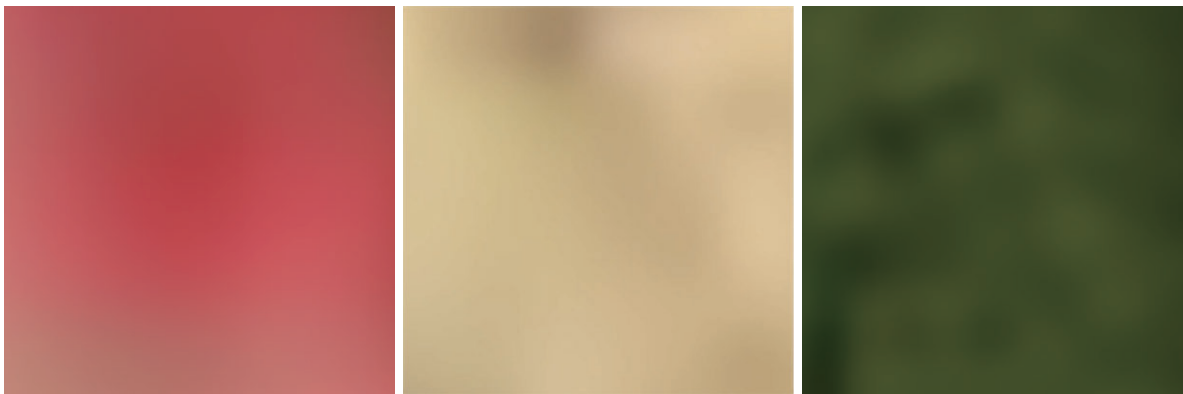
菊池和晃

KIKUCHI Kazuaki



## | 作家コメント |

折角なので、スタックした泥濘を観察してみることにした。ゼロ距離で眺めてみたり、線を引いてみたり、重さを確認したり。どのみち、しばらくの間ここで足止めを食うことになるので、じっくりやってみることにした。そのうちに、ぼつりぼつりと鳥肌が立ってきて、皮膚が引っ張られ、体が浮いて、前後不覚になってきた。泥の重みを感じつつ、なんとか体を動かして泥をかき出していく。しばらくすると、隣に新しい泥濘ができたので、誰かがそこにスタックするのを期待した。



超近景シリーズ

左から《フェルメール 真珠の耳飾りの少女》《ペラスケス ラス メニーナス》《ヤン・ファン・エイク アルノルフィーニ夫妻の肖像》  
キャンバスにアクリル絵具 400x400x50mm 2026

1993年京都府生まれ。2018年京都市立芸術大学大学院 修了。

肉体を酷使することで稼働する自作の装置で  
美術史から引用したイメージを生産する。

## 受賞

- 2021 LUMINE meets ART AWARD 2020-2021 グランプリ受賞
- 2020 Kyoto Art for Tomorrow 2020 -京都府新鋭選抜展- 優秀賞受賞
- 2018 京都市立芸術大学作品展 / 京都市立芸術大学 大学院市長賞受賞
- 2016 成安造形大学卒業制作展 / 京都市美術館 優秀賞受賞Awards

## 個展

- 2024 厄除けコンポジション / 河野邸 (大阪)
- 2022 創造力 / +1art (大阪)
- 2021 CUT / The Third Gallery Aya (大阪)
- 2021 Draw / +2 (大阪)
- 2020 Draw the City / KUNST ARZT (京都)
- 2020 Draw a Circle / The Third Gallery Aya (大阪)
- 2019 Muscle / The Third Gallery Aya (大阪)
- 2014 箱の中に在る表面 / 成安造形大学 ギャラリーキューブ(滋賀)

## 主なグループ展 (2017~)

- 2025 Chronoscape | 蓄積された時間、継続する行為 / 成安造形大学 (滋賀)
- 2025 KANSAI ART ANNUAL 2025 CO / 心斎橋PARCO (大阪)
- 2024 手にとる展 / +1art (大阪)
- 2022 Meta MALL "アルター"市場 vol.03 / BnA Alter Museum (京都)
- 2021 LUMINE meets ART AWARD 2020-2021  
/ ルミネ新宿 ルミネ2 スタニングルアーショーウィンドウ (東京)
- 2020 Kyoto Art for Tomorrow 2020 -京都府新鋭選抜展- / 京都文化博物館 (京都)
- 2018 以"身"伝心 からだから、はじめてみる / ボーダレスアートミュージアムNO-MA (滋賀)
- 2017 若手芸術家支援企画 1floor2017 合目的的不毛論 / 神戸アートビレッジセンター (兵庫)